

2021 アートマイル国際協働学習プロジェクト 報告書

日本学校名 [市川市立真間小学校] 担当教諭名 [園部 有美] (6年 103名)

相手国・地域 [台湾]

海外学校名 [Wunsian Elementary School] 担当教諭名 [Chen, Sheng-chi]

■実施教科・時間数について教えてください。

	教科	単元名	時間数
アートマイルに関連した 実施教科・時間数	総合的な学習の時間	食品ロスを減らそう	40
	外国語	台湾と交流学習をする準備をしよう	2

■作品に込めた想いについて教えてください。

題 (テーマ)	身近な食品ロスを減らそう
メッセージ (相手と想いを合わせて 世界に発信したいメッセージ)	SDGs#2「飢餓をゼロに」の目標達成を目指し、家庭での食事や学校での給食の際に、一人ひとりのちょっとした工夫によって、食品ロスを減らしていくことができる。身近な取り組みを目標達成につなげていきたい。



■今回の取り組みの成果と課題はどういった点でしょうか？

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none"> 世界で起きている様々な問題に興味をもち、進んで調べることができた。 身近な食品ロスをなくしていく意識をもち、行動に移し、継続することができている。 相手に伝えることの大切さと難しさを経験することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症による各国の教育活動の制限の影響で、当初の計画に大幅な変更をしていく必要があり、プロジェクトの進行が遅れた。 英語での意見交換が難しく、教員同士の意思の疎通が難しかった。

■アートマイルに取り組む前と比べて相手の国・地域や世界に対して意識はどう変わりましたか？

児童生徒の意識の変化	教師の意識の変化
<ul style="list-style-type: none"> 台湾が近隣国であることは、知っていたがその特色については初めて知ることが多く、台湾の文化的魅力を実感していた。 異国の児童との交流を経験し、自分の考えが伝わる喜びや、認識が共通することの驚きを感じていたようである。 	<ul style="list-style-type: none"> 外国の児童と交流することは難題だと思っていたが、やり方を工夫すれば方法はいくつもあり、その効果が座学の何倍にもなるということを実感した。 相手に伝える責任が生じたことで、児童がより主体的に活動できたのだと思う。やはり、活動の目的・狙いが明確であることは重要であることを学んだ。

■主な活動の流れを教えてください。

場面	時期	活動内容	児童生徒の反応	実施教科等
出会い 自己紹介	7月 ～ 9月	・相手校が台湾だったこともあり、リアルタイムのオンラインミーティングを開催し、お互いに簡単な自己紹介を実施した。	・顔合わせを行ったことで、児童のモチベーションは一段と高まったようだ。緊張が見られたが、次こそは上手に話したいという意欲も見えた。	総合 外国語
共有 テーマ学習	10月 11月	・SDGsの#2を両国のテーマとし、さらに学校給食を減らす取り組みに焦点を当てて、実践的な活動を行ってきた。	・自分事として、調べ、実践することをテーマに活動してきたことで責任が生まれ、学級の残菜は大きく減少した。	総合
融合 メッセージ作成	11月 12月	・双方、オンライン上で自分たちが取り組んできたことの成果と課題を発表した。その際、フォーマットを共有し、整理しやすいようにした。	・相手に伝わりやすい文章、声色、表情など1回目の交流よりも工夫している様子が見て取れた。相手校の発表を聞いて新たな取り組みを浮かべている児童もいた。	総合
創造 壁画制作	12月	・各学級で取り組んできたこと(ポスター、コンポスト)などを壁画に表した。また、お互いの国のシンボルを書くことで異文化理解を図った。	・原案の構想から配色まで児童自らが進めたことで、自分たちのプロジェクトのまとめをすることができた。	総合
評価 振り返り 自己評価	12月 ～ 3月	・ワークシートによる振り返りを実施。その後、学級で共有した。	・SDGsというのは世界的な取り組みだが、自分たちにできる取り組みが多いということに気が付いた児童が多かった。	総合

■アートマイルでついた力について教えてください。

評価 (5:とてもついた 4:ついた 3:どちらともいえない 2:あまりつかなかった 1:つかなかった)

学習目標・つきたい力	評価	教師がそう感じた場面と理由
異文化・自文化を理解する力	5	台湾とはどういう国なのか、本やインターネットを活用して調べたり、交流したりしながら学んできた。その中で、台湾の新たな魅力に気付くだけでなく、自分たちのあたりまえが「日本らしさ」であることも実感した。
批判的に思考する力 (客観的・論理的視点)	4	フードロス対策について相手校と意見交流をするにあたり、児童自らが多くの資料を作成した。班発表・学級発表を通してより相手に伝わる内容や話し方を主体的に話し合い、精査する姿が見られた。
主体的に考え行動する力	4	学級で議論したことを綺麗ごとで終わらせぬよう、自分たちの足で積極的にフィールドワークを行った。学校内の残菜チェック、各クラスへの宣伝、家庭から出るごみの削減などの活動が実を結び、クラスの残菜は大幅に減少した。
多様な他者と対話・協働する力 (海外の相手と対話・協働)	4	オンライン交流を実施するにあたり、自分たちの想いを英語で訳す作業を行った。1文を短くする、字幕を付けるなどの言語の工夫だけでなく、表情やジェスチャーなども積極的に取り入れる工夫をしていた。
想いを言葉や形にする力 (メッセージ作成・壁画制作)	4	自校で取り組んできたフードロス対策と相手校の取り組みを融合させた壁画になるよう、一人ひとりが原案を描き構想を膨らませた。それらを持ち合い、より良いデザインを話し合うことで双方の狙いに迫った。